「人権無視の制度」

廃止求め市民集会

県内初の裁判員裁判が始まったことを受け、制度を批判し廃止などを求める市民団体は15日、那覇市内でピラ配布や集会を開き、制度の廃止を訴えた。

同日午前8時から、那覇地裁前で団体関係者約10人が「裁判員制度はいらない」などと書かれたピラを裁判員候補者や裁判所職員、傍聴希望者に配布。同団体の崎浜秀俊代表は「選ばれた人の意思とは無関係

に強制参加させられる。人権を無視した制度で憲法違反でもある」と批判し、制度廃止を呼び掛けた。

同日午後6時半には那覇市の県青年会館で集会を開き、制度に反対する沖繩弁護士会の岡島実弁護士や東京弁護士会の高山俊吉弁護士が制度の問題点を説明した。約30人が参加した。岡島弁護士は「多くの人が国民参加という言葉にだまされている」と指摘。本

来の目的は治安強化と裁判官のための正当化であり、刑事司法の改善ではないとした。高山弁護士は、裁判員にとって裁判への参加が苦役の強制となり、出席拒否も続出していると、「既に制度は失敗している」と指摘した。